

「たとえ一つの声でも」(2015. 8. 10)

平和を実現する人々は、幸いである、その人たちは神の子と呼ばれる。

Blessed are the peacemakers: for they shall be called the children of God. (マタイ 5:9)

イエス様は山上の説教で、平和を実現する人々・peacemakers は幸い・blessed であると言われた。神様が大きい喜び、あなたは愛する私の子！と祝福されるのである。イエス様は真の peacemaker の姿を見せてくれた。どのような状況にあっても愛の御言葉が湧いてくる揺るがない平和。それはいつも「アッバ、父よ」と呼び掛ける父なる神への揺るがない信頼、大きな愛の力に守られている神の子としての自覚が源泉である。

先週、天において大いなる喜びがあった。T 兄の洗礼である。「あなたは私の愛する子。私の心に適う者！」まさに上掲のみ言葉通り、「神の子と呼ばれる」という祝福の宣言が響き渡った。これは主を信じて洗礼を受けた T 兄はもちろんのこと、T 兄の御両親や教会が平和を実現する人々・Peacemakers として祝福されていることを意味している。それゆえに、大きな愛の力に守られている神の子として、私達は平和の道具として生きたい。



8 月 6 日、広島に原爆が投下されて 80 年を迎えた。平和記念式典で佐々木駿君(小 6)が「One voice. たとえ一つの声でも、学んだ事実思いを込めて伝えれば、変化をもたらすことができるはずです。」と挨拶した。なんと彼は広島に



観光に来る外国人に対して、ガイドとして流ちょうな英語で原爆の悲惨さを説明しているのである。また、石破首相の挨拶も自分の言葉で語っていて、被爆者の問題に心を砕いている印象を受けた。特に、結びで歌人・正田篠枝(しのえ)さんの短歌「太き骨は先生ならむ そのそばに 小さきあたまの骨 あつまれり」を 2 度にわたり読み上げ、原爆の悲惨さが伝わってきた。

私達も平和の道具として原爆の悲惨さを忘れず、one voice, たとえ一つの声でも伝えて行きたい。